

## 1年「みんな みんな いきている」

「手のひらを太陽に」の歌詞から、命があるからこそ感じる気持ちや、輝いている自分について考えました。

歌詞をよく見てみると、たくさんの生き物が出てきており、みんな同じように「生きている」ことに気付きました。どんな気持ちを感じるのか考えてみると、たくさんの気持ちを思い出すことができました。そんな気持ちを感じる中で、自分が輝いているのはいつ？と問うと、「友達と遊んでいるときは、楽しいから輝いているよ。」「学校の仕事を頑張っているときの自分は輝いている！」など、様々な意見が出ました。また、そんな自分たちを、家族をはじめとする周りの人々が応援してくれていることに気付きました。命は目に見えないものなので、考えることは難しかったようですが、自分の生活と結び付け、一生懸命自分なりの答えを見付けて、発表していました。



## 2年 「おとうとのたんじょう」

「おとうとのたんじょう」を題材に、自分のもつ生きる力について考える授業を行いました。自分は家族の願いを受けて生まれてきたこと、普段のしぐさや行動が『生きているサイン』として家族に伝わっていることに気付く主人公の姿から、自分たちの生きているサインは何か、それを見て家族はどう感じるかについて学習しました。できるようになったことやもっとやってみたいことなど、その一つ一つが生きる力になっていると気付くことができました。児童は、「自分たちには生きる力があるんだ。」「これからも頑張って家族に生きているサインを見せていきたいな。」「これからも自分の命を大切にしていきたい。」と命の大切さを感じ、元気に生活していこうという思いをもつことができました。



### 3年 「どうか、生きていてくれよ」

かけがえのない生命を守るために、自分の命を危険にさらしてまでも、人命を守ろうとする消防士の話について考えました。

危険と隣り合わせである消防士の仕事を続けるのは、大切な人の命をすくった時の満足な気持ちを感じるためであるという消防士の方の思いを、児童はしっかり想像することができました。そして、「自分の命を守れないと人の命も守れない」という消防士の方の言葉に、児童は胸を熱くしていました。

自分たちの命が、消防士の方をはじめ、様々な人たちによって守られているということ、そして、かけがえのない自分の命を大切にしていこうということ、児童は学習することができました。





## 4年 「バルバオの木」

「バルバオの木」を題材に、受け継がれる生命について考える授業を行いました。樹齢何十万年のバルバオという大木が、飢えに苦しむ鳥やシカ、ゾウたちに、実や葉、最後に自分自身の幹を投げ出し、動物たちの危機を救う姿から、自分たちの命もたくさんの動植物の命をいただいてできているということを学習しました。児童は、「いただいた命を無駄にしないために、残さず食べていきたい」「いつも食べているご飯も、命をいただいていることを考えて感謝して食べたい」「つながっている命を自分もつないでいきたい」と、命の繋がりを感じていました。



## 5 年 「こころの授業」

五年生はスクールカウンセラーの谷田先生をお迎えし、「こころの授業」を行いました。学校でも家でも、今より少しだけ楽しく過ごせるようになるために、『「ちょっと嫌な気持ち」とどうやって上手に付き合っていくかを知る」「相談することの大切さについて知る」を目標に、大きく三つのことを教えてくださいました。

- ① イラッとしたら深呼吸などして、ちょっとだけ待つしてみる
- ② 怒りを使わず、してほしいと思っていることを言葉で伝える
- ③ これからの長い人生を生きやすくするためには、困ったとき、「助けて」「教えて」と言えるようになること

授業後の振り返りでは、「今日教わったことを生かして、これからも友達と仲良くしていきたい。」「自分もイライラしてしまうことがあるから、深呼吸をして気持ちを落ち着けていきたい。」などの感想がありました。



## 6年 「羽ばたけ、折り鶴」

佐々木禎子さんの話をもとに、もっと生きたいと願う人々の思いや、生命を尊び平和を願う人々の思いについて考え、これからの自分自身の生き方について考えを深めました。

児童は、元気に生活していた日常が突然奪われた禎子さんの死を無駄にしてはいけないと活動する同級生たちの思いや祈りが世界中に広がり、それは今も広がり続けていることを知り、生命を尊重し、平和を願う人々の思いを強く感じることができました。

当たり前にあるこの日常が、自分たちにとってどれだけ素晴らしいものであるのか、そして、この当たり前の日常を自分たちがどうやって守り、生きていくのか。授業の最後には、「日々の生活に感謝して過ごしていきたい」「他人事と思わず、自分事として自分にできることを考えて生活していきたい」など、自分の生き方について深く考えていました。

